

No.59



兵庫県立 李但馬自然学校

(Nature Education Center)





兵庫県立南但馬自然学校 副 校 長 橋 紀 裕

ました。 とが出来ました。 きなトラブルもなく無事終了するこ 度も皆さんのご理解ご協力により大 の方にご利用いただきました。本年 事への参加者、 団体、そして「指導者養成講座」や か。平成23年度は、 親子で自然学校」などの本校主催行 本校での自然体験は 子ども会などの一般団体が51 併せて延べ約4万人 ありがとうござい 自然学校が59小 いかがでした

ては十分ご理解いただけたものと考 んでしたが、 ての利用団体での実施には至りませ 組を紹介しました。本年度は、すべ た、一般の方を含めて下見などの取 の方には事前説明会や出前講座、ま る環境をつくるため、自然学校関係 たちが自然の中で安心して活動でき 昨年の「どんぐりNo.57」で子ども それらの必要性につい

うお願いします。 や下見等についてご検討くださるよ 0) は、子どもたちの安全を確保し内容 えています。 充実を図るためにもぜひ出前講座 本校を利用される際に

画 多かった」 間に追われ教師主導で進めることが 同 口 報告をいただいています。 になった」と担当者にとって嬉しい きな感動と達成感を味わう自然学校 然の中で多くの得難い体験をし、大 了後に先生方にアンケートをお願 たという さて、 様、「たくさんの体験は出来た反 の反省点について尋ねると、 プログラムが過密だった」、「時 せっかくの自然学校だからあ 本年度も大半の学校から「大自 実施報告書としてまとめていま 本校では毎年、 回答も少なからずありまし など、時間に余裕がなかっ 自 一方、今 然学校終 昨年

時の活動や用具なども検討 とは難しいかもしれませんが、 用している場合はさらに複雑な調整 がよくあります。 もいいのかもしれませんね。 あるようです。 が必要になります。 本校周辺では急に天候が変わること たようです。 雨天時のプログラム変更も大変だっ くりと自然を感じるゆとりがあって の時間なども考えて、 もこれも体験させたいとの プログラムまで事前調整を行うこ どうしても活動が増える傾向 梅雨 移動や準備・片付け 加えて複数校が利 の時期をはじめ なかなか雨天時 もう少しゆっ 思 ・準備 また、 b

> すのでよろしくお願いします。 安全でさらに素晴らしい自然体験を も、今年度の反省を踏まえ、 ておくことが大切でしょう。 提供できるよう、 職員一 同頑 安心・ 張 来 ŋ 年 ま

が降ります。 色もまたいいものです。 を見せてくれる自然ですが冬の雪景 本校の芝生広場周辺です。「春夏秋 します。 |馬自然学校にもお越しください。 最後に冬の南但馬自然学校を紹 四季それぞれに素晴らしい表情 昨年同様、 心からお待ちしています。 掲載している写真は、 今年度もよく雪 ぜひ冬の南

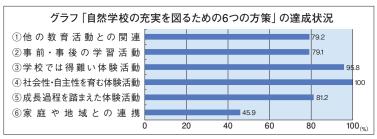
表紙の写真/セリバオウレン

草丈10センチほどの白い花は、ほとんど陽が当たらない 湿った場所を選ぶようにひっそりと咲いています。ゆらゆら と時折届く木漏れ日が、闇の中から花を浮かび上がらせ、ま るで別世界に迷い込んだような神秘的な気分にさせてくれ ます。

セリバオウレンの「セリバ」は葉の形がセリの葉に似てい ることから、また、オウレンは漢字で"黄連"と書き、櫛状に 連なる黄色い根を持つことから名付けられたそうです。この セリバオウレンは薬草で、お腹の薬として用いられます。

平成23年度の自然学校実施報告書から

平成23年度の利用校から提出いただいた実施報告書をまとめましたので、その内容をいくつか紹介します。



グラフは、利用校における「自然学校の充実を図る ための6つの方策」の達成状況の自己評価のうち、「よ くできた」「だいたいできた」の合計を示したものです。 方策⑥「家庭や地域との連携」を除き、概ね達成出 来たと考えられます。

(※自己評価は、「よくできた・だいたいできた・あま りできなかった・まったくできなかった」の4段階で 回答してもらった)

〈利用校の具体的な取組(実施報告書からの抜粋)〉

①他の教育活動との関連

- ・「南但馬の魅力を探ろう・味わおう・ 伝えよう」(総合的な学習の時間)
- ・カルタ・俳句づくり(国語) ・自然物クラフト (図画工作)
- ・ひのきーホルダーづくり(檜の枝打 ち体験、その枝を活用)(環境教育)
- ・毎日の日記 (道徳)
- ·自然観察、星空観察(理科)



竹食器づくり

②事前・事後の学習活動

〈事前)

- ・実行委員による話し合い活動
- ・隠れ家の完成イメージを班で相談 ・出前講座(ロープワーク・火おこし体験) (事後)
- ・自然学校報告書づくり
- ・自然学校新聞づくり
- · 自然学校発表会



出前講座での火おこし体験



出石そば流し

③学校では得難い体験活動

- 朝来山早朝登山 (雲海を見る)
- 隠れ家づくり
- ・満天の星空観察
- ・日本海に出かけての漂着物調査
- ・竹田城跡や竹田城下町めぐり
- ・お月見会
- ・出石そば流し ・火おこし器での火を用いた野外炊事

ランタンファイヤー

④社会性・自主性を育む体験活動

- 友だちと協力しないとできない活動を多 く取り入れる (野外炊事等)
- ・連合実施による他校の児童と合同班編成
- ・一人用テント泊
- ・カウンシルファイヤー (ランタンを用いて)
- 一人一役の係活動
- 選択プログラム
- ・スタンツの話し合い、スタンツ練習

⑤成長過程を踏まえた体験活動

- ・班のメンバーでペースを合わせて 登った竹田城跡登山
- ・朝食、昼食、夕食づくりからテント 泊まで屋外で過ごすプログラム
- ・野外炊事材料の現地買い出し
- ・2日間取り組んだ野外炊事
- ・ネイチャーゲーム
- ・毎日の振り返り



野外炊事材料の買い出し

⑥家庭や地域との連携

- 保護者からの手紙に対する返信
- ・参観日での自然学校保護者発表会 ・与布土地区協議会との連携(田植
- え、ダム見学、座禅体験等) ・南但馬自然学校技術指導員の方と の交流(星空観察、朝来山自然散策、 水生生物観察会等)
- ・家庭に帰ってからの掃除、洗濯、料理



与布土地域自治協議会との連携 (座禅休験)

担当の先生方の感想には、

- ・出前講座は子どもたちの自然学校への意欲付けや技術習得の観点でもとても効果的であった。
- ・1日1プログラムのゆったりした時間設定が良かった。
- ・子どもたちが友だちと協力することの大切さを学ぶことができた。
- ・自然学校を通して、子どもたちの心の成長を感じた。
- など、成果を述べておられる先生方が多かったのはとてもうれしいことでした。 逆に、
 - ・5泊6日分を4泊5日に押し込んだプログラムには無理があった。
 - ・プログラムに余裕がなく忙しかった。
 - ・子どもたちが自主的に自然と触れ合ったり仲間と語りあったりする時間があまり確保できなかったので、半日ほどフリー の時間を作ってもよかったかなと思った。

など、日数が減ることによる対応に苦慮されている面もありました。自然学校が4泊5日以上となって3年が経過した今、前年 度の反省を生かしゆとりのある自然学校を展開していただきたいと思っています。

実施報告書には挙がっていませんでしたが、「子どもたちの参画や変容」を意識した取組がありましたので紹介します。 「子どもたちの参画」を意識した取組として、子どもたちが主体的に取り組むために、出前講座での話や6年生の自然 学校での様子をもとに、子どもたちが希望する活動を中心にプログラムを構成されていた事例がありました。

「子どもたちの変容」を意識した取組としては、先生方が、毎日、子どもたちの「自然学校振り返りノート」に一言赤 ペンを入れることで、翌日以降の活動意欲が高まり、子どもたちの変容につながったという事例がありました。また、毎 日の自然学校での振り返りの際に子どもたちから出た反省点をボードに書き込み、そのボードを活動場所に常に持ち回る ことで、その反省点を意識させて、子どもたちに「自覚と責任」を持たせようとした事例もありました。

自然学校での様々な活動を通して、先生方の思いが子どもたちに伝わり、「自然学校の学び」が自然学校実施後の学校 や家庭での生活に活かされることを願っています。

南但馬自然学校調査・研究委員会から

本校では、平成13年度から「兵庫県立南但馬自然学校調査・研究委員会」を設置し、自然体験や集団生活等をとおして、子どもたちの「生きる力」を育む自然学校の一層の充実を図るため、様々な調査・研究を進めている。平成23・24年度は、①分析部会と②検証部会に分かれ、原体験度調査をもとに下記の研究テーマを決めて調査・研究を行っている。今回は平成23年度に調査した内容の一部を報告する。

(※原体験とは、生物や人及びその他の自然物により醸成される事象を、触覚・嗅覚・味覚をはじめとする五感を用いて知覚し、その後の事物事象の認識に影響を及ぼす体験のこと。詳しくは、「どんぐりNo58」を参照のこと。)

☆ ①分析部会 研究テーマ「様々な視点から見た原体験度調査の分析」 ☆

原体験度調査結果(子ども・大人とも合計の平均)

分類	No	質問項目	子ども	大人
① 水体験		海や川など水中に潜ったことがある	85%	92%
		1メートル以上のところから水中に飛び込みをしたことがある	45%	71%
		山の源流など湧き水を飲んだことがある	36%	73%
② 土体験		どろんこ遊びをしたことがある	87%	93%
		30センチ以上の深さの穴を掘ったことがある	70%	74%
		土の上を裸足で歩いたことがある	96%	95%
3 石体験		石を割ったことがある	74%	67%
		石で地面に字や絵を描いたことがある	95%	92%
④ 木体験		木登りで背丈以上まで登ったことがある	66%	78%
		木 (直径5センチ以上) の立木を倒したことがある	21%	36%
		栗やアケビ、ヤマブドウなどの木の実採りをしたことがある	57%	72%
(5)		ツクシやセリ、ヨモギ摘みをしたことがある	53%	83%
草体験		草刈りをしたことがある	73%	85%
T-17-9/C		アシ・スズメノテッポウなどで草笛を作ったことがある	43%	65%
(6)		海や川で魚捕りをしたことがある	70%	84%
動物体験		ザリガニを手で掴んだことがある	59%	79%
		ミミズを指で掴んだことがある	47%	74%
⑦ 火体験		たき火をしたことがある	54%	86%
		火おこしをしたことがある	68%	72%
(8)		日の出を見たことがある	58%	80%
情感体験 ⑨ 複合体験		海や川など水平線に沈む太陽を見たことがある	54%	85%
		一歩先の見えない暗闇を体験したことがある	68%	74%
		千メートル以上の山に登ったことがある	20%	50%
		野外で大便をしたことがある	12%	32%
	25	山で基地作りをしたことがある	33%	43%
		各項目比率の平均	57.71%	73.389

(調査対象)

子ども…南但馬自然学校利用校8団体 (11校) 男子293名、女子298名、合計591名 大 人…平成23年度新任の小・中・特別支援学校の教員 男性330名、女性391名、合計721名

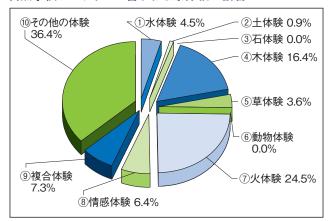
今回の調査結果から、大人の方が子どもよりも原体験度調査項目にある体験を数多く経験していることがわかった。ただ、今回の調査対象である大人は特定の職業(新任の教員)ということもあり、様々な職業の人を対象に調査を行うとまた違った結果になるかもしれない。

「土の上を裸足で歩いたことがある」「石を割ったことがある」「石で地面に字や絵を描いたことがある」の項目は子どもの方が若干数値が高いという結果となった。

(文責 主任指導主事 北條 勝也)

☆ ②検証部会 研究テーマ「原体験度調査をもとにした自然学校プログラムの検証」 ☆

自然学校プログラムに含まれる原体験の割合



(調査対象)

原体験度調査実施校8団体(11校)の自然学校プログラム

(原体験の分類とそれに類似する活動例)

①水体験…カッター・カヌー、川遊び等 ②土体験…こけ玉づくり、陶芸体験等 ③石体験…勾玉づくり、河原で石を投げる等 ④木体験…隠れ家づくり、木エクラフト等 ⑤草体験…草笛づくり、草木染め等 ⑥動物体験…サワガニ、イモリ、カエルを手で掴む等 ⑦火体験…野外炊事、キャンプファイヤー等 ⑧情感体験…カウンシルファイヤー、ナイトハイク、星空観察、お月見会等 ⑨複合体験…朝来山登山、竹田城跡登山、雲海を見る等

※原体験の分類に入らないものは「⑩その他の体験(フリータイム、スタンツ練習、リーダーとの交流会等)」としている

※原体験の割合については、「8団体 (11校)の原体験の分類に入 る活動数」/「8団体 (11校)のすべての活動数」

- ・ 調査対象校で実施された原体験の分類に入る活動としては、火体験が一番多く24.5%、続いて木体験の 16.4%だった。
- ・ 石体験と動物体験は、調査対象校では実施されなかった。

野外炊事やキャンプファイヤーをほとんどの学校が実施していることから火体験の割合が最も高く、ひのきーホルダーづくりをはじめとして木工クラフトの活動に多くの学校が取り組んでいることから木体験の割合も高くなっていると考えられる。

また、自然学校のねらいが、「自然体験」よりも「自主性・自立性・協調性・思いやり」などの人とのふれあいを重視した学校では、原体験の分類に入る活動の割合が低い場合もあった。

(文責 主任指導主事 戸田 康夫)

新たな取組の紹介

振り 仮りにピッタリ ~ 南但馬自然学校ふりかえりカルタ~ 明石市立谷八木小学校

本号で紹介する明石市立谷八木小学校(52名)は、6月27日から5日間、"力を合わせ何ごともやりきる自然学校"をスローガンに入校しました。

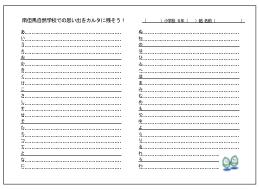
自然とのふれあいや日常の学校生活では得難い体験をさせたいという思いから、朝来山ハイキング、隠れ家づくり、こけ玉づくり、生活棟周辺で集めた枯れ枝を用いたこけ玉の受け台づくりなどに取り組みました。

そんな中、4日目の午後に、「南但馬自然学校ふりかえりカルタ」づくりをしました。これは、今年度本

南但馬自然学校ふりかえりカルタづくり 指導の流れ(1時間)

- 1 見本を例示しながら、「ふりかえりカルタ」について説明をする。(10分)
- 2 「ワークシート」に個人個人で五・七・五の作品をつくる。(15分)
- 3 「カルタ用紙」に一番気に入った作品を記入し、色鉛筆で絵も描く。(15分)
- 4 班の中で作品を交流し、みんなの前で発表する作品を決定する。(5分)
- 5 班で選んだ作品の中味と、その作品を選んだ理由も発表する。(10分)
- 6 まとめ(5分)







カルタの見本

ワークシート

制作の様子

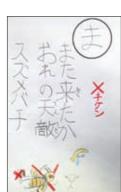






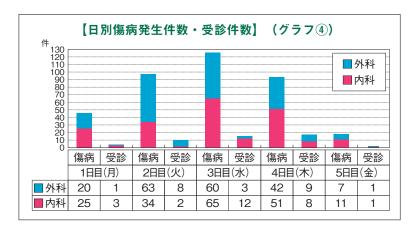






児童一人一人が、南但馬自然学校での思い出をカルタで表現しようと絵を描きながら生き生きと取り組む姿や班で作品の交流をする姿が印象的でした。作品完成後は、本校食堂にて展示しましたが、みんなの作品を集めると自然学校期間中どんな活動をしたか、どんな気持ちだったのかがよくわかり、まさに振り返りにピッタリの活動となりました。

南但馬自然学校ふりかえりカルタは、学校に帰ってから実施することもできますが、感動さめやらぬ現地で実施することでよりよい振り返りになります。また、他の施設でも応用可能ですので、ぜひ実施を検討いただければ幸いです。



(4) 日別傷病発生件数・受診件数

日別傷病発生件数・受診件数はグラフ④の とおり、内科、外科の合計でみると3日目が 多い。

内科では3日目、4日目、2日目の順で多く発生し、受診件数も3日目、4日目の順で多い。外科では、2日目、3日目、4日目の順で多く発生している。受診件数では、傷病発生件数の順とは違い4日目、2日目の順で多い。特に4日目は、傷病発生件数42件の内9件(21.4%)の受診があった。2日目は傷病発生件数63件あったが、受診件数はその内8件(12.6%)であった。

2健康・安全管理

○発熱・感冒症状や疲労感・気分不良は、毎年のように発生件数は多いが、今年度頭痛、腹痛が多くなった原因を、各学校から出された傷病記録から拾ってみると、頭痛では疲れ、かぜ気味、暑さからの軽い熱中症気味によるものが多く、腹痛では便が何日か出ないといった便秘によるものが多かった。鼻出血は昨年度に比べ多いが、思い当たる理由が見あたらなかった。

普段とは違った環境で過ごす中で、ちょっとした負荷、例えば過度な活動内容、気候による暑さ寒さなどが、一部の子どもたちには大きなダメージとなることがあるのかもしれない。それを踏まえ、気候や子どもたちの体力などの条件に合わせた活動内容に変えていくことが大切だと考えられる。

○芝生広場でのけがは、自由時間に起きている。斜面なので歩いていて滑ったり、走っていて転倒したりしてけがにつながっている。活動に縛られない自由時間でも、その過ごし方について安全指導を徹底させることが大切だと思われる。施設内の道でのけがの内訳は4件中3件が階段でのけがだった。入校時に階段についての注意事項を話しているが、今後も続けていく必要があり、利用校指導者にも注意してほしいと思う。

野外キッチンでのけがでの受診は昨年度は火傷が多かったが、今年度は火傷による受診はなかった。工作室でのクラフト中のけがは、昨年度小刀による深い切創があったことから、安全指導の徹底を行い今年度は刃物での切創の受診はなかった。ただ不注意から工具で足を挫創し受診することになったので、工具の扱い方、利用校指導者の安全指導と人員配備のあり方など大切だと感じた。

- ○4泊5日の中で、活動が活発になる2・3・4日目は体調不良やけがが増えてくる。3日目に傷病件数が多いのは、1日2日は我慢ができても3日目には我慢ができなくなり体調不良を訴えることが考えられることと、プログラムの内容が増えゆとりがなくなりがちになることが考えられる。4日目は、疲れと慣れから集中力が欠けてくると思われるので、特に注意することが大切だと考えられる。
- ○今年度、他施設に出かけたときに緊急搬送や、けがが発生した。子どもたちの中には、自由時間の開放感からか大きな事故につながりかねない行動を起こすことがある。他施設での人員配置や安全管理のあり方を検討し、もし事故が起こった時には的確な行動を取れる体制をたてておくことが大切であると考えられる。

子どもたちが健康で安全な自然学校を送り、ねらいが達成できるように願っている。利用校の指導者、帯同救急員、 指導補助員と施設職員とがお互い情報を交換しながら連携して、子どもたちの健康管理にあたっていきたい。

(文責 指導主事 林 潤子)

アクティビティ紹介

自然体験プログラム(「自然への気づき」)

環境教育の観点からもお勧め!

五感(視覚・聴覚・触覚・臭覚・味覚)で自然を感じ、心と体で直接自然を体験することによって、 自然と自分が一体であることに気づくプログラム

落ち葉 de ベッド

落ち葉のベッドに全身を潜り込ませ、落ち葉から「ふとん」のような温もりを感じると共に、顔だけを出して空を見上げることで、普段とは全く違う世界を発見する。

準備するもの:乾いた落ち葉、ブルーシート 注意点:①寝転ぶ場所は、石などがない平らな

リ授戦が場所は、石などかない子らな場所を選び、顔が直射日光にあたらないようにする。

②落ち葉は、静かにていねいにかけて あげる。



①落ち葉の上に横たわり、乾いた落ち葉を 全身にかける。



②顔のまわりだけは、落ち葉がかからない ようにする。

平成23年度 兵庫県立南但馬自然学校における傷病発生状況から

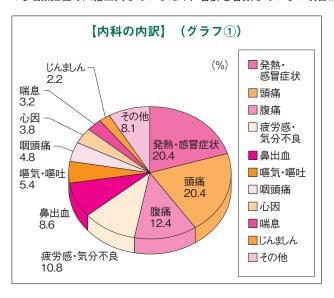
【傷病発生状況】 (表 1)

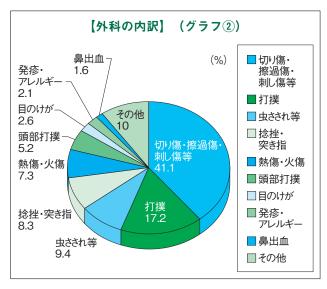
	内 科	外 科	合 計
H23年度傷病発生件数(件)	186	192	378
H23年度傷病発生率(%)	0.9	1.0	1.9
H22年度傷病発生率(%)	0.7	0.9	1.6
18年間の平均傷病発生率(%)	0.9	0.8	1.6

【医療機関受診状況】 (表 2)

	内 科	外 科	合 計
H23年度受診件数(件)	26	22	48
H23年度受診率(%)	0.1	0.1	0.2
H22年度受診率(%)	0.1	0.1	0.2
18年間の平均受診率(%)	0.1	0.1	0.2

※発生率・受診率は、件数を、利用児童延べ人数20,198人で割り、算出した。 ※少数第2位で四捨五入しているため、合計と合致していない項目がある。





【場所別けがの発生件数・受診件数】 (グラフ③)



1傷病記録より

(1) 傷病発生状況及び医療機関受診状況

今年度の傷病発生率は、表1のとおり昨年度に比べて、 内科では0.7%から0.9%に増え、外科でも0.9%から1.0%に 増加した。18年間の平均傷病発生率と比べると、内科は 同じ0.9%だが、外科では0.8%から1.0%と0.2%多い結果と なった。

医療機関受診率は内科、外科とも表2のとおり、昨年度 や18年間の平均受診率と変わらなかった。

(2) 傷病発生状況の内訳

内科の内訳は、グラフ①のとおりで、多い順にあげると、「発熱・感冒症状」「頭痛」が20.4%、「腹痛」12.4%、「疲労感・気分不良」が10.8%になる。鼻出血は、昨年度2.9%だったが、今年度は8.6%に増えた。

外科の内訳は、グラフ②のとおり「切り傷・擦過傷・刺し傷等」が41.1%あり半分近くを占めている。続いて「打撲」17.2%、「虫さされ等」9.4%の順になっている。

(3) 場所別けがの発生件数・受診件数

場所別のけがの発生件数・受診件数(グラフ③)では、「野外キッチン」「工作室とその周辺」「大屋根広場」「生活棟」の順で多い。受診件数では、「芝生広場」「施設内の道」「その他・不明」「大屋根広場」の順になる。芝生広場では、発生件数7件の内、5件が受診の必要なけがだったことになる。施設内の道は、芝生広場に続いて4件の受診がある。

野外キッチン、工作室とその周辺はけがの発生件数が多いにもかかわらず、受診件数は1件のみにとどまっている。

平成24年度 講座。研修会等のご案内

自然体験活動1日講座

的:様々な自然体験活動に係る技術や指導法について研修し、指導力の向上を目指します。

対 象:公立小・中・高等学校(神戸市を除く)及び特別支援学校教員(初任者研修及び10年経験者研修の校外研

修としても受講可)

募集定員:各回40名程度

回	期日	内 容
第1回	平成24年 6月19日火)	実習「自然に親しむ」(ゲーム・遊びの指導)
第2回	平成24年10月 9日火)	実習・演習「自然を感じる」(アクティビティの指導・開発)
第3回	平成24年11月27日(火)	実習「自然物でつくる」(クラフト、草木染めの指導)

◆体験学習法に関すること

=自然学校出前講座=

旬 的:本校の職員が要請に応じて県下各学校等を訪問し、自然学校等「生きる力を育む体験活動」の支援を行

います。

実施時期:平成24年4月~平成25年3月(実施日は各学校の要請をもとに調整します。)

内 容:◆自然学校に関すること

・自然学校の趣旨説明・事前相談・事前学習・保護者説明会・事後学習・事後相談

◆プログラムデザインに関すること

◆自然とふれあう手立てに関すること
◆人とふれあう手立てに関すること

申込方法:実施1ヶ月前までに「自然学校出前講座申請書」で申し込んでください。

= 自然学校講座(指導者入門)=

的:自然学校の趣旨や指導者の役割を理解するとともに、野外体験活動等の実習を通して、指導者としての 資質能力を高めます。

期 日:平成24年8月28日(火~30日(木) 1日または講座単位の受講も可

対 象:大学生、一般県民、県下の公立学校教員(高等学校10年研修として受講可)、自然学校に関心のある者

募集定員:30名

内 容: 兵庫県の自然学校と体験活動について、アクティビティ体験、プログラムデザイン、活動におけるリス

クマネジメント、キャンプファイヤー指導の基礎基本、野外炊事指導の基礎基本 等

参加費:宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費が必要です。

プレ自然学校・アフター自然学校

期 日: 日帰り又は1泊2日

(1)自然学校受入期間中

金曜日・土曜日受け入れ可(金曜日から土曜日にかけての1泊2日も可)

(2)自然学校受入期間以外 全日受け入れ可 (春季、夏季、冬季の長期休業期間中を除く)

対 象:県内公立小中学校

内 容:施設散策オリエンテーリング、朝来山登山、自然体感ゲーム、クラフト、野外炊事、隠れ家づくり、テ

ント泊等

経 費:食事代(弁当持参も可)、施設使用料、活動材料費が必要です。

※詳しくは、兵庫県立南但馬自然学校指導課までお問い合わせください。

親子で自然学校

~親子で南但馬自然学校を楽しもう~

第1回 平成24年12月15日(土)~16日(日)

第2回 平成25年 1月19日 (1)~20日(日)

第3回 平成25年 2月23日(土)~24日(日)

場 所:兵庫県立南但馬自然学校

参加費:食事代·宿泊料·リネン料、活動材料費、保険料が必要です。

対象:原則として県内の小学生とその保護者

募集定員:10組(40名程度)

内 容: 自然の不思議発見、施設散策、餅つき、チャレンジ ハイク、自然物クラフト、星空観察、野外炊事、影

絵 等

申込み:事前に参加申込が必要です。

遊友体験活動事業

(里山遊友体験)

(主山超汉严肃)

第1回 平成24年7月7日 (1) 9:30~

第2回 平成24年10月20日仕 9:30~

場 所:兵庫県立南但馬自然学校

参加費:無料

対 象:一般県民(お子さまだけの参加はご

遠慮ください)

内 容:第1回「きみも昆虫博士になろう!」

~森の生き物さがし~

第2回「秋の森を探検しよう!」 ~きのこさがしに挑戦~

申込み: 事前に参加申込が必要です。

- ●〒669-5134 兵庫県朝来市山東町迫間字原189 ●TEL(079)676-4730 ●FAX(079)676-4008
- ●URL http://www.shizengakko.jp/ ●E-mail mtajimashizen@pref.hyogo.lg.jp

